

JSTフェア2018

8月30日～31日に東京ビックサイトにおいて、「JSTフェア2018 科学技術による未来の産業創造展」が開催されました。

防災科研の紹介、レジリエント防災・減災研究推進センターより戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）レジリエントな防災・減災機能の強化の研究成果の紹介、先端的研究施設利活用センターよりリアルタイム広域斜面監視型の防災情報システムの研究紹介、気象災害軽減イノベーションセンターよりイノ

ベーションセンターの研究紹介やe-ASIA共同研究プログラムで行っているドローンによる災害情報の収集と活用について、ブース展示を行いました。

出展テーマ毎にブースが分かれたため、複数箇所に点在する形での出展となりましたが、JSTフェアは、非常に盛況で二日間を通して、のべ約16,600名の方が来場されました。

防災科研のブースは、非常に多くの方々にご来場いただき、防災科研の取り組みを紹介することができました。



ブースの様子（防災科研紹介）



ブースの様子（気象ハブ）



ブースの様子（ドローン）

平成30年度 第2回 デ活シンポジウム

9月19日に、防災科研が進める首都圏レジリエンスプロジェクト・データ利活用協議会（デ活）は、東京都の全国町村会館で平成30年度第2回シンポジウムを開催しました。

シンポジウムは、「マルチデータインテグレーションシステムによる首都圏の詳細な地震動の把握に向けて」と題し、企業の防災担当者や専門家約170名が参加しました。

当日は地震観測データの利活用について、企業と研究者からプレゼンテーションがあったほか、登壇者らによるパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは「多様なデータの統合による社会的な共通価値の創出に向けて」と題して、データ活用や、発表の方法、データの対価負担などについて話し合われました。最後に、デ活新会員の紹介が行われ、閉会となりました。



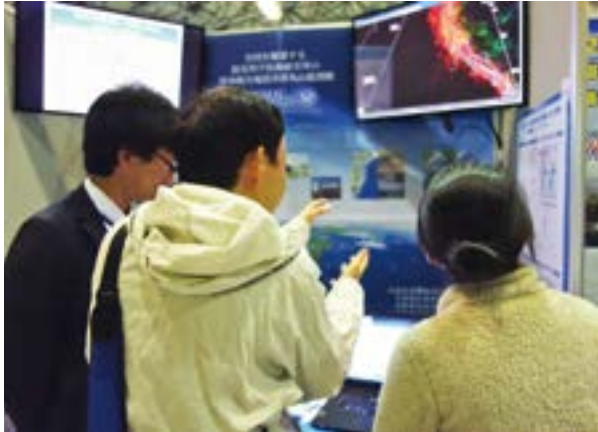
プレゼンをする青井真研究統括



パネルディスカッションの様子

第9回日本ジオパーク全国大会 アポイ岳(北海道様似町)大会

10月6日～7日に北海道様似町において、「第9回日本ジオパーク全国大会アポイ岳(北海道様似町)大会」が開催されました。防災科研はブース展示を行い、地震津波火山ネットワークセンターの取り組みとして、陸海統合地震津波火山観測網「MOWLAS」(モウラス)を紹介しました。



ブースの様子

また、各地のジオパークからの参加者も多く、ジオパーク内に設置されている防災科研の観測網の紹介や、ジオパーク向けの地震活動を公開するサイト「防災科研 地震だねっと!」の紹介を行い、多くの方に防災科研の取り組みを紹介することができました。



防災科研 地震だねっと!

危機管理産業展

10月10日～12日に東京ビックサイトにおいて、「危機管理産業展」が開催されました。防災科研は講演とブース展示を行いました。

12日には、首都圏レジリエンス研究センターの田村圭子研究統括が「将来の大規模災害にどうそなえるのか～ICTの効果的な利活用をふまえた企業の対策～」と題し、企業・団体の経済的価値向上と地域レジリエ

ンスカへの貢献を同時に実現するデータ利活用の枠組みについて講演を行いました。

また、ブース展示ではE-ディフェンス実験の研究成果の紹介や地震被害のVR体験を行い、3日間で約400名の方に体験いただきました。

講演、ブース展示ともに多くの方にご覧いただき、防災科研の取り組みを紹介することができました。



講演の様子



VR体験の様子

ぼうさいこくたい2018

10月13日～14日に東京ビックサイトにおいて、「ぼうさいこくたい2018」が開催されました。防災科研は講演とブース展示を行いました。

14日には林春男理事長が「防災教育交流フォーラム 今、防災教育に“足りないもの”は何か?」、「東京スペシャル～首都直下地震に備える～」のセッションに登壇しました。「防災教育交流フォーラム」では、教育現場やマスコミなど幅広い視点での防災教育について、「東京スペシャル～首都直下地震に備える～」では、

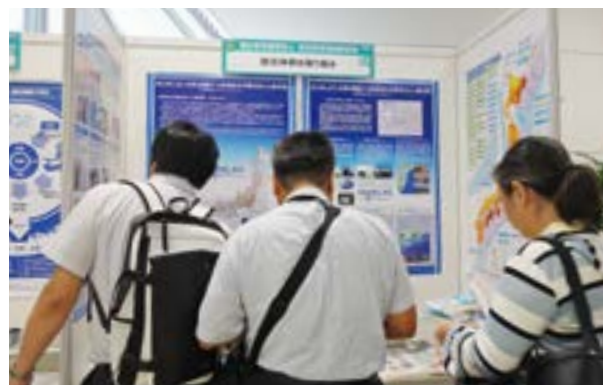
公助と連携した自助・共助によって、どのように首都直下地震に備えるかについて活発な議論がかわされました。

ブース展示では、「防災科研の取り組み」をテーマに、観測網の紹介や地域防災Webの取り組みなどを紹介しました。

セッション、ブースともに多くの方にご覧いただき、防災科研の取り組みを紹介することができました。



講演の様子



ブースの様子

第20回図書館総合展

10月30日～11月1日にパシフィコ横浜において、「第20回図書館総合展」が開催されました。防災科研自然災害情報室では図書館が受けた災害体験の共有と継承による防災力向上を目的にフォーラム、トークイベントを主催し、関連資料のブース展示を行いました。

フォーラム「西日本豪雨災害 緊急報告会～被災地図書館からの報告」では、岡山、愛媛県内の図書館にご講演いただき、約120名の方にご来場いただきました。

トークイベント「災害と図書館～被災したらどうなる? どうする?」では、常総市立図書館の講演のほか、「災害をどう伝えていくか」と題して被災地図書館が果たすべき役割について有識者による鼎談が行われました。

ブース展示では、当室が取り組む全国の図書館の災害資料集積などについて紹介しました。多くの方にお越しいただき、防災科研の取り組みを紹介することができました。



フォーラムの様子



ブースの様子

筑波大学学園祭 雙峰祭

11月3日～4日に筑波大学において、「筑波大学学園祭 雙峰祭」が開催されました。防災科研はつくば研究紹介コーナーで展示を行いました。

防災科研の紹介に加えて、筑波大学連携大学院制度を実施している水・土砂防災研究部門の取り組みを紹介しました。

竜巻発生メカニズムの研究の展示とともに、バーチャルリアリティを用いて高潮時の浸水を体験していただきました。

筑波大学の学生のみならず、高校生や近隣の方々まで、多くの方に防災科研の取り組みを紹介することができました。



高潮時の浸水体験の様子



ブースの様子



2017年度日本地震学会技術開発賞を受賞

陸海統合地震津波火山観測網「MOWLAS」(モウラス)の構築と地震学・地震工学・火山学への貢献をしたとして、地震津波火山ネットワークセンター青井真センター長、高感度地震観測管理室浅野陽一室長、強震観測管理室功刀卓室長、広帯域地震観測管理室木村武志室長、日本海溝海底地震津波観測管理室植平賢司室長、海底地震津波観測管理室高橋成実室長、火山観測管理室上田英樹室長、地震津波防災研究部門

汐見勝彦副部門長、企画部松本拓己次長、レジリエント防災・減災研究推進センター藤原広行センター長および地震津波火山ネットワークセンターが、2017年度日本地震学会技術開発賞を受賞しました。

また、青井センター長が「陸海統合地震津波火山観測網(MOWLAS)の構築」と題して、記念講演を行いました。



授賞式の様子



記念講演で講演する青井センター長

国家レジリエンス研究推進センターを設置

防災科研では、2018年12月1日に研究事業センターの一つとして国家レジリエンス研究推進センターを設置しました。

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期課題「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」の公募・選定の結果、防災科研は5つの研究開発項目の研究開発機関や共同研究開発機関となりました。これらの活動の相乗効果により、研究開発と社会実装を強く推し進めることが国家レジリエンス研究推進センター設置の目的です。

12月10日には、国家レジリエンス研究推進センターキックオフミーティングを開催し、新センタース

タートの第一歩として、林春男理事長があいさつをしました。

その後、岩波越国家レジリエンス研究推進センター長からの「研究開発項目間の密な連携をとりながら、効果の最大化を図りたい」とのあいさつに続き、臼田裕一郎研究統括、酒井直樹研究統括、藤原広行研究統括、清水慎吾研究統括、鈴木進吾研究統括、田口仁コーディネーター、高橋郁夫コーディネーター、前坂剛コーディネーター、須藤三十三コーディネーターより、それぞれの研究開発項目に対する力強い決意表明がありました。(花島誠人コーディネーターはテレビ会議出席)



林 春男
理事長

岩波 越
国家レジリエンス研究推進センター長

防災科研が担当する5つの研究開発項目
(※付きは防災科研が研究開発機関)

- | |
|-----------------------|
| I. 避難・緊急活動支援統合システム開発* |
| II. 被災状況解析・共有システム開発* |
| III. 広域経済早期復旧支援システム開発 |
| V. 線状降水帯観測・予測システム開発* |
| VII. 市町村災害対応統合システム開発 |



防災科研ニュース

2018 No.203

2018年12月31日発行

●防災科研ニュースは Web でもご覧いただけます

■発行  国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 企画部広報課
TEL.029-863-7768 FAX.029-863-7699

URL : <http://www.bosai.go.jp/> e-mail : k-news@bosai.go.jp